

日本教育メディア学会
学 会 通 信 第 65 号

学会ホームページ <http://jaems.jp/>

2013 年 12 月 8 日発行

事務局

〒176-8534

東京都練馬区豊玉上1-26-1

武蔵大学社会学部

中橋雄研究室内

電話：03-5984-4792

E-mail：office@jaems.jp

目次

2013 年度 第 20 回日本教育メディア学会年次大会お礼	2
企画委員会ワークショップのお知らせ	4
論文投稿のご案内とワークショップのお知らせ	5
研究会のお知らせ	6
学会ロゴの決定	7
第 7 期 第 7 回理事会(定例)議事録	7
定例総会議事録	10
学会費納入のお願い、入会者・退会者	13

2013 年度 第 20 回日本教育メディア学会年次大会お礼

年次大会実行委員長 豊田充崇（和歌山大学教育学部）

第 20 回日本教育メディア学会年次大会は、10 月 12 日（土）、13 日（日）の両日、好天の秋空の下、和歌山大学にて開催されました。

初日は、一般研究発表および基調講演、総会、開催校企画、懇親会というプログラムでしたが、午前中の一般研究発表から多くの方々にお集まりいただき、メディアの理論的な研究にはじまり、調査研究・実践研究・システム開発等々多種多様な発表において、活発な議論が交わされました。



一般研究発表の様子

午後は、文部科学省生涯学習政策局・情報教育課長である豊嶋 基暢氏に、『「世界最先端 IT 国家創造宣言」を踏まえた「教育の情報化」の展望について』というタイトルで基調講演をお願いしました。文部科学省が関係する各種の教育の情報化政策について、国内事情からグローバルな視点も交えて、総括的にご説明いただきました。これまでの国内の情報化の経過・現状の整理、そして特に教員の ICT 活用指導力の向上や、子どもたちの情報活用能力の育成に関する再検討、更に当学会を代表した質問者として奈良教育大学の小柳氏からの質問への回答等も含め、本学会への期待も込めてのお話をいただけたかと思えます。

その後、総会を経ての開催校企画では、和歌山大学学内にある「全面ホワイトボードの部屋」の教育利用についての紹介および「模擬授業教室」における授業デモンストレーションを実施しました。「模擬授業教室」は一般校の普通教室での ICT 活用を想定し、各種情報メディアの利用シミュレーションや授業者へのレクチャーを目的とした場として本学部に構築した部屋です。今回は和歌山大学教育学部・教育実践学専攻生による模擬授業を 3 事例実演しました。学生らの拙い授業にもかかわらず、児童生徒役の学会参加者に温かいご支援をいただきましてありがとうございました。教員養成における実践力向上・育成の取り組みの一端を示せたかと思えます。



授業デモンストレーションの様子

なお、その後の懇親会は、学内レストランにて実施したため、動くのもままならないほど非常に手狭な会場となり参加者の皆様には大変ご不便をおかけしました。但し、多種多様な参加者の交流が近距離でできるため、話がつきることなく最後まで盛会であったことと感じております。

二日目は、一般研究発表およびシンポジウム、課題研究発表がおこなわれました。

シンポジウムは、特に小・中・高校の先進的なモバイル端末活用を学校挙げて取り組む事例発表を集め、更に研究者 3 名で事例分類や論点整理等を実施しました。通常は難しい議論に陥りがちな学会シンポジウムではありますが、今回は特に教育現場の先生方からの「分かり易い・現場に役立つ」との評判が高かったのが印象的です。具体的な先進事例を豊富な資料で示し、その意味付けや学習効果等を語ることで、参加者（特にタブレット PC やモバイル端末の導入や普及を推進する側の立場にある先生方）が、

今後の方向性・ビジョンを持つことができたようです。

その後の課題研究Ⅰ（情報活用能力の育成と評価）・課題研究Ⅲ（SNS利用の実態とその教育利用）では、2日目の最後のプログラムにもかかわらず、多くの参加者が残り、熱心な協議が交わされました。ここで1つ心残りなのは、課題研究Ⅱにおいて、日本教育メディア学会が出版した『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい 2013.2）について取り上げたのですが、発表や参加者が他に比べて若干少なかった点にあります。書籍タイトルが、「博物館情報～」となっているために誤解されるかもしれませんが、書籍の内容としては、基本的なメディア論にはじまり、教育の情報化・タブレット端末の活用に至るまで広く網羅されています。メディア教育を学ぶ学生や教員などにも非常に分かり易く且つ豊富な写真・図解も掲載され、資料的な価値も高いといえます。

今回は、年次大会事務局の宣伝・案内不足であった点は否めませんが、当学会が持つ教育現場につながる学問としてのスタンスが示され、実践的な知見が詰まった良書でありますので、今後とも各地で広めていけるような企画が出てくることに期待したいと思います。

最後に、本学は大阪と和歌山をまたぐ和泉山脈の中腹に位置しているため交通の便が非常に悪く、また年次大会の開催が3連休・秋の行楽シーズン真っ只中となり、集客数が懸念されました。しかし、2日間を通して約150名の参加者を得ることができて、胸をなでおろすことができました。

不慣れな事務局と実行委員長の力量不足で、関係各位はじめ参加者には大変ご迷惑・ご不便をおかけしたことをお詫びするとともに、皆様の温かい支援によって滞りなく全日程を終えられたことに改めて感謝致します。本当にありがとうございました。今後の学会の益々の発展を祈りつつ、次期年次大会開催の金沢にバトンを渡したいと思います。



シンポジウムの様子

企画委員会ワークショップのお知らせ

企画委員会 委員長 中川一史, 本企画担当 堀田博史

企画委員会では、2013年12月21日(土)12:45 受付, 13:15~16:30 内田洋行新川オフィス(東京・八丁堀)において『子ども(幼児・小学校低学年)向けメディア教材を用いた思考をはぐくむ学びと遊びのデザイン』と題したワークショップを開催します。

幼児や小学校低学年までの子どもを楽しませるメディア教材のデザインには、中学年以降の子どもにも共通するものがあると考え、その内容を探りたく、今回の企画に至りました。子どもの教材・デザイン研究の最先端3名の登壇者を迎え、講演・ワークショップへとつなげます。

<登壇者プロフィール>

沢井佳子氏(チャイルド・ラボ所長)

森田倫代氏(NHK Eテレ「みいつけた!」ディレクター)

朝倉民枝氏((株)グッド・グリーン代表)

<時程>

12:30~ 受付開始

13:00~13:20 開会、主催者あいさつ、趣旨説明

13:20~14:50 沢井氏, 森田氏, 朝倉氏からのミニ講演(各30分程度)

14:50~15:00 休憩

15:00~16:15 ドラマ手法を使ったコミュニケーションワークショップ

16:15~16:30 子ども向けメディア教材の不易と未来の流行について(各5分)

16:30~ 閉会

17:00~ 懇親会場へ移動

<参加費> 1,000円

<懇親会> ワorkshop終了後、懇親会を予定しております。参加費 約5,000円(場所は、八丁堀駅周辺を予定しています)。

<参加申し込み>

定員50名(先着順で定員になり次第、締め切らせていただきます)

ワークショップに参加希望の方は、以下の項目を記入の上、メールにてお申し込み下さい。

- (1) ご所属
- (2) お名前
- (3) ご住所・連絡先
- (4) 懇親会に 参加する・参加しない

参加申し込み等の連絡先 hotta@sonoda-u.ac.jp (担当: 園田学園女子大学・堀田博史)

<了解事項>

ワークショップの様子は、ビデオ・写真撮影をいたします。Webサイトで公開予定ですので、ご了承をお願いします。不都合がある方は、事前にお申し出ください。

論文投稿のご案内とワークショップのお知らせ

編集委員会 国内ジャーナル担当 委員長 久保田 賢一

■投稿論文募集(第21号1巻)のお知らせ

締切：2014年2月28日(金曜日)

■ワークショップのお知らせ

日本教育メディア学会の編集委員会と企画委員会が合同で「国際連携・国内連携における教育メディア研究」ワークショップを企画しました。学校間交流、高大連携、地域社会と連携したサービスラーニング、海外と連携したフィールドワーク、産学連携、オープンコースウェアを活用した学習など、教室の枠を超えた様々な教育実践が多くみられるようになりました。このような教室の枠を超えた実践においてメディアの活用は不可欠です。ソーシャルメディア、TV会議システム、LMSなどの様々なメディアを活用して、他大学、他の学校と連携した教育実践に関する研究について議論をしたいと思います。

来年度の特集論文のテーマを「国際連携・国内連携における教育メディア研究」とし、このワークショップでの成果を学会誌の特集論文につなげていきます。具体的には、ワークショップに青山学院大学准教授 香川秀太先生をお招きして、関連領域について学ぶ機会を設けます。本テーマに関連する研究を会員から募り、ワークショップではそれらの研究発表について議論し、特集論文として執筆していただくことを考えています。

来年度の特集論文「国際連携・国内連携における教育メディア研究」に投稿を希望する会員は、このワークショップに参加し、研究発表をしていく方向で論文の執筆を検討していただきたく思います。

このワークショップは、教育メディア研究における新しい研究アプローチを模索するためのひとつとして考えておりますので、是非、多くの方に参加していただきたく思います。また、本ワークショップは、本学会の非会員の方にも参加いただけますので、関心のある方にも声をかけてください(※ただし、論文の発表、投稿については、会員に限ります。)

日時：2014年2月8日(土曜日) 13時～17時(予定)

場所：関西大学 東京センター(予定) <http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/map.html>

講師：香川秀太先生(青山学院大学准教授)

定員：30名

参加費：1000円

申し込み：日本教育メディア学会ホームページより事前申し込み

担当者(問い合わせ)：日本教育メディア学会 編集委員長 久保田賢一(関西大学)

Email: edit@jaems.jp

■21巻2号特集号「国際連携・国内連携における教育メディア研究」(Vol.21, No.2)のお知らせ

締切：2014年7月31日(木曜日)

第2回研究会のお知らせ

研究委員会 国内研究会担当 委員長 浅井和行, 本企画担当 市川尚

■ テーマ 「ICT と授業設計・学習支援／一般」

ICT分野の発展と、それに伴う日常生活へのICT環境の浸透など、これまでにない急速な変化の中で、教育におけるICT活用はますます重要になってきています。

ICTを学習における道具あるいは基盤として、協働（協調）学習および個別学習の実現や、学習内容の多様な表現、思考過程の外化など、より学習を効果的・効率的・魅力的にするために活用していくことが期待されます。

単なる目新しさだけの導入にとどまらず、ICTの特性を踏まえながら、どのように授業で有効活用していけばよいのか、どのように学習環境を整備していけばよいのかを考える機会としたいと思います。

また、このテーマに限らず広く本学会の研究分野に関わる発表も歓迎いたします。

■ 日時：2014年3月15日（土）13:00～16:00

■ 場所：岩手県立大学アイーナキャンパス（岩手県盛岡市）

（JR盛岡駅西口より徒歩5分 岩手県民交流情報センター「アイーナ」7階）

■ 参加費：資料代1,000円

■ 発表申し込み締め切り日：2014年1月17日（金）

■ 原稿送付締め切り日：2014年2月17日（月）

具体的な申込み方法等につきましては、後日ご案内いたします。

研究会終了後には懇親会も予定しております。

学会ロゴの決定

広報委員会 委員長 小柳和喜雄

選考経過

4月14日の理事会において、学会ロゴの作成について学会長より、提案がなされ、広報委員会にその検討が依頼されました。

それを受けて、学会通信62号そして63号で、会員に広く公募を行いました。

そして8月23日のML理事会で経過報告と今後の手続きについて得た承認に基づき、基本的にはその経過に従い、10月はじめまでに応募作品の中から、結論を以下のように絞込み、理事会にて選考結果を報告し、了承を得ました。

そして、第20回日本教育メディア学会年次大会の総会で以下のように報告をさせていただきました。

学会ロゴ選考の結果

鈴木雄清氏のアイデアを採用させていただくことになりました。

現在、鈴木氏より応募いただいたアイデアをブラッシュアップしており、完成次第、本学会通信や学会WWWなどにも使わせていただく予定です。

多くのご応募ありがとうございました。

第7期 第7回理事会(定例)議事録

1. 日時 2013年10月11日(金) 15:00-17:00
2. 場所 和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター101室
3. 出席者 会長、理事16名(委任状8名)、監事2名
4. 協議事項

◎総務関係

- (1) 入会者・退会者の承認について(審議)

新規入会者・退会者について資料に基づき説明され、承認された。

- (2) 総会資料について(報告)

総会資料についての確認がなされた。

◎編集委員会

【国内】

(1) 執筆要項の改訂（審議）

資料に基づき 21 巻 1 号より適用される投稿規定の改訂案が示され、次回以降の理事会で継続審議とすることが確認された。

(2) 査読の手順について（報告）

査読サーバーの運用を開始したことが報告された。

(3) 20 巻 1 号、20 巻 2 号の進捗状況（報告）

20 巻 1 号、20 巻 2 号の進捗状況について報告された。20 巻 2 号については、締切を延長して 2013 年 10 月 30 日にすること、21 巻 1 号については、締切を 2014 年 2 月 28 日とすることが報告された。

(4) 特集論文に向けたワークショップの日程、講師、内容、場所の確定（報告）

特集論文に向けたワークショップについて、企画委員会と共催で 2014 年 2 月 8 日に開催することが報告された。

(5) 特集論文について（締め切り、内容）（報告）

21 巻 2 号の特集テーマが「国際連携、国内連携におけるメディア活用」であることが報告された。

(6) 展望論文の依頼について（報告）

21 巻 2 号「国際連携、国内連携におけるメディア活用」のテーマで展望論文を依頼することが報告された。

(7) 新しい編集委員の任命について（審議）

編集委員の 1 名増員が提案され、承認された。

【国際】

(1) 今年度の論文誌について（報告）

今年度の国際ジャーナルが発行され、日本福祉大学で配布されたことが報告された。

(2) 2014 年度の体制について（報告）

2014 年度ジャーナルについて、韓国の委員が中心となって編集作業を担うことが報告された。

(3) 論文投稿の対象者について（報告）

コンカレントセッションの全発表に対しインビテーションレターを送ることが報告された。

◎研究委員会

【国内】

(1) 本年度開催された研究会の報告について（報告）

2013 年 7 月、湘北短期大学で第一回研究会が実施されたことが報告された。

【国際】

(1) 本年度開催された研究会の報告と次年度計画について（報告）

2013 年 8 月、日本福祉大学において、ICoME2013 が実施されたことが報告された。

次年度は、2014 年 8 月下旬を目処に韓国で開催されることが報告された。

◎年次大会委員会

(1) 本年度開催に関する報告と次年度計画について（報告・審議）
年次大会実行委員長より挨拶がなされた。
次年度年次大会開催校として金沢星稜大学が提案され、承認された。

◎広報委員会

(1) 「学会ロゴの選考」について（審議）
原案が提示され、承認された。

◎企画委員会

(1) 12月の企画委員会単独企画について（報告）
2013年12月、「子ども（幼児・小学校低学年）向けメディア教材を用いた思考をはぐくむ学びと遊びのデザイン」をテーマとして実施されることが報告された。
(2) 2月の編集委員会との合同企画について（報告）
2014年2月、「国際連携、国内連携におけるメディア活用」をテーマとして実施されることが報告された。

◎井内賞選考委員会

(1) 井内賞の選考経過と受賞者について（報告）
井内賞の選考経過と受賞者について報告がなされた。

◎その他

(1) 総会委任状に付記された会員からの質問事項について（審議）
総会で議案1と2の説明に組み込んで回答することについて提案され、承認された。また会員名簿の発行については、掲載内容と方法も含めて理事会での継続審議事項とされた。
(2) 理事の欠員の補充について（審議）
会則第31条に基づき、前田康裕会員に理事を委嘱することが提案され承認された。
(3) コンプライアンス委員会について（報告）
コンプライアンス委員会が組織されたこと及び、その進捗状況について経過報告がなされた。
(4) 他学会の動向等について（審議）
積極的にメーリングリストで広報することが提案され、承認された。

以上

日本教育メディア学会 事務局長（第7期）
中橋 雄（武蔵大学）

教育メディア学会 定例総会議事録

1. 日時 2013年10月12日（土）15:30-16:30

2. 会場 和歌山大学 基礎教育棟G103

3. 内容

議事に先立ち、議長から、有効な委任状が26通事務局に届き、出席者が50名のため、学会会則第44条に従って2013年度定例総会が成立していることが報告された。

（1）議案

第1号議案（2012年度事業報告及び収支決算承認の件）

資料に基づいて、事務局長から2012年度事業経過及び結果（機関誌発行、年次大会の開催、学术交流等：研究会、ICoME2012、ワークショップの開催等）についてそれぞれ説明があり、また、監事から通帳、会計書類等適正に処理、保管されていることが報告され、審議の結果、2012年度収支決算（案）が異議無く承認された。

第2号議案（2013年度事業計画及び収支予算承認の件）

資料に基づいて、事務局長から2013年度事業計画（機関誌発行、年次大会の開催、学术交流等：研究会、ICoME2013、ワークショップの開催等）についてそれぞれ説明があり、審議の結果、2013年度収支予算（案）が異議無く承認された。

（2）報告事項

①表彰「日本視聴覚教育協会・井内賞」審議経過と結果報告

担当委員より「日本視聴覚教育協会・井内賞」審議経過と結果が報告され、表彰が行われた。

- ・受賞者名：池尻良平、藤本徹、椿本弥生、山内祐平
- ・論文名：歴史的事象を現代の問題解決に応用する力を育成する教材のデザインと評価
- ・掲載論文誌：教育メディア研究 第19巻第1号（2012年9月）

②『教育メディア研究』特集論文・一般論文の募集の件

『教育メディア研究』巻21号2号で、特集論文を募集するという案内があった。

③2014年度年次大会の件

次年度の年次大会は、金沢星稜大学にて開催されることが報告された。

④ICoME2014の件

ICoME2014は、韓国にて、2014年8月下旬に開催されることが報告された。

⑤学会ロゴの募集・選考の件

担当委員より「学会ロゴの募集」に関する選考の経過と結果が報告された。

⑥総会委任状に付記された会員からの質問事項について

会員名簿の発行について掲載内容と方法も含めて理事会で協議していくことが報告された。

⑦理事の欠員の補充について

会則第31条に基づき、前田康裕会員に理事を委嘱することが理事会で承認されたことが報告された（任期は岡部前理事の残任期間である2015年度定例総会の前日まで）。

第1号議案

2012年度 収支決算 (自2012.4.1~2013.3.31)

1. 収入の部

収入項目	当初予算	決算額	差額	備考
繰越金	3,339,824	3,339,824	0	2011年度から繰り入れ
正会員会費	1,715,000	1,414,000	▲ 301,000	202名分
学生会員会費	112,000	76,000	▲ 36,000	19名分
団体会員会費	350,000	300,000	▲ 50,000	6団体
購読会員会費	84,000	56,000	▲ 28,000	8会員
過年度正会員会費	308,000	343,000	35,000	のべ49名分
過年度学生会員会費	24,000	28,000	4,000	のべ7名分
過年度団体会員会費	0	50,000	50,000	1団体分
過年度購読会員会費	0	0	0	
入会金	135,000	46,000	▲ 89,000	23名分
雑収入	100,000	530,911	430,911	ICoME2011・2012参加費 358,000円, 別刷り印刷 80,000円, 『博物館情報メディア論』印税 42,758円, 利子その他 50,153円
計	6,167,824	6,183,735	15,911	

2. 支出の部

支出項目	当初予算	決算額	差額	備考
通信運搬	300,000	344,485	44,485	学会誌・別刷送料, 事務局移転送料
消耗品	50,000	22,710	▲ 27,290	消耗品費
設備・什器	0	0	0	
印刷製本	1,200,000	593,806	▲ 606,194	学会誌18(合併号), 19(1), 別刷・製本 ※19巻(2)は2013年度発行に繰越
会議費	100,000	0	▲ 100,000	理事会・各種委員会で使用しなかったため
国際会議開催補助費	700,000	700,000	0	国際会議 ICoME2013 開催補助費 (2011年度、2012年度: 350,000円×2年分)
借損料	50,000	0	▲ 50,000	関大東京センター, 東北学院大学を無料で使用できたため
旅費	100,000	219,790	119,790	事務局旅費, 会計監査旅費
諸謝金	500,000	500,000	0	事務局補助謝金
年次大会委託費	400,000	155,961	▲ 244,039	2012年度年次大会運営費 (東北学院大学)
研究会委託費	200,000	209,782	9,782	2012研究会委託費 2回分
企画委員会委託費	200,000	57,721	▲ 142,279	企画委員会委託費
雑費	20,000	53,130	33,130	振込手数料 (9,210円), オンライン口座管理費 (12,600円), ホスティングサーバー料金 (23,760円), DNS料金 (7,560円)
予備費	2,347,824	245,650	▲ 2,102,174	2011年度の誤入金を2012年度に返金 (120,000円), 2011年度井内賞副賞 (100,000円), 香典・供花等
繰越金	0	3,080,700	3,080,700	2013年度会計に繰り越し
計	6,167,824	6,183,735	15,911	

第2号議案

2013年度予算（自2013.4.1～2014.3.31）案

1. 収入の部

収入項目	前年度決算	予算額	備考
繰越金	3,339,824	3,080,700	2012年度から繰り入れ
正会員会費	1,414,000	1,575,000	7,000円×225名（納入率70%）
学生会員会費	76,000	88,000	4,000円×22名分（納入率70%）
団体会員会費	300,000	300,000	6団体
購読会員会費	56,000	70,000	10会員
過年度正会員会費	343,000	322,000	7,000円×46名分（未納者の40%）
過年度学生会員会費	28,000	20,000	4,000円×5名分（未納者の40%）
過年度団体会員会費	50,000	0	
過年度購読会員会費	0	0	
入会金	46,000	30,000	15名分
雑収入	530,911	100,000	別刷り印刷、印税、雑誌販売
計	6,183,735	5,585,700	

2. 支出の部

支出項目	前年度決算	予算額	備考
通信運搬	344,485	300,000	学会誌・別刷郵送費
消耗品	22,710	100,000	消耗品費
設備・什器	0	0	
印刷製本	593,806	1,200,000	教育メディア研究19(2)・20(1)・20(2), IJEMT7(1), 封筒, 別刷
会議費	0	100,000	理事会・各種委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	700,000	350,000	ICOME2013開催補助費（2013年度分）
借損料	0	50,000	理事会・各種委員会会議場借料
旅費	219,790	200,000	監査に係る旅費, 理事会・各種委員会・事務局会旅費
諸謝金	500,000	500,000	事務局補助謝金
年次大会委託費	155,961	400,000	年次大会開催委託費
研究会委託費	209,782	200,000	研究会委託費 2回分
企画委員会委託費	57,721	200,000	企画委員会委託費
雑費	53,130	60,000	振込手数料, オンライン口座管理費, ホスティングサーバー料金（23,760円）, DNS料金（7,560円）
予備費	245,650	1,925,700	
次年度繰越金	3,080,700	0	
計	6,183,735	5,585,700	

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2013年度(2013年4月1日から2014年3月31日)の年会費(正会員7,000円、学生会員4,000円)が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店(ヨンイチハチ店) 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会(ニホンキョウイクメディアガクカイ)
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にしてください。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。大学事務局を通じた大学名による振り込みは、どなたの会費か判断できないため避けていただくようお願いいたします。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生(社会人学生を除く)です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください(スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます)。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要お知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくようお願いいたします。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員(10名)・・・岩松 枝実香、倉掛 崇、秋光 淳生、村田 晶子、今度 珠美、佐藤 和紀、柴田 隆史、広瀬 一弥、笠井 正隆、松本 早野香

新入会員・学生会員(6名)・・・大福 聡平、中川 歩香、山口 晃平、天野 慧、田渕 敬光、丸山 俊幸

会員総数 377名・16団体
名誉会員：3名
正会員：340名
学生会員：34名
団体会員：6団体
購読会員：10団体
(2013年9月13日現在)

日本教育メディア学会 事務局

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1
武蔵大学社会学部 中橋雄研究室内
電話：03-5984-4792 E-mail：office@jaems.jp
学会ホームページ URL：<http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 小柳和喜雄(奈良教育大学)
副委員長 永田智子(兵庫教育大学)
副委員長 村上正行(京都外国語大学)

(2013年12月8日現在)